

個人山行

## 上毛三山：妙義山お中道

- ◆日程 2019年4月13日(土)
- ◆メンバー L：渡辺 豊
- ◆天候 快晴

目的 ①妙義山の奇岩を味わう。 ②妙義山のラフスケッチをする。

**荒船山** 妙義山周辺の山はどの山も垂直に鋭い歯をもたげている。そんな中、荒船山だけが忽然と水平の頂稜部を見せたかと思うと一気に大岩壁が切れ落ちる。この山の名前を間違える人はいないであろう。

昔、ワカン山行で三枝さんと登った。帰りのバスを待つ1時間、からっ風が身にしみた。そんな中で三枝さんは語った。

三枝さんが会報係だった時、山行報告の記事がない。このままでは会報が出せなくなってしまう。そこで三枝さんは急遽山に登ってそれを記事にした。そういうことが何回かあったが、会報が途絶えることはなかった。

**忘れえぬ瞳** 妙義神社の枝垂桜の下で、ヘルメットの女性と桜の話をした。真っすぐに心に入ってくる目だ。真っすぐに心に受け止める目だ。かつて同じ目の女性にあった。三ツ峠でヘルメットをチョイとハスにかぶって隣のルートに登っていた。「こんにちわ」と世間話をした。30年以上経っても忘れえぬ瞳だ。

前夜、我々は三ツ峠山荘泊で飲んだ。一階でにぎやかに飲んでいるグループがあった。長谷川恒夫登山教室の一行だ。長谷川恒夫の声が一番大きかった。いつまでも飲んでいた。

**涸沢での話** ある時、河野さんは涸沢で長谷川恒夫に会った。好きなクライマーだったので、生ビールを一杯おごった。後日、長谷川恒夫から一冊の著書が届いた。

長谷川恒夫はパキスタンの山を愛し、パキスタンの山に散った。パキスタンのシェルパは危険をかえりみず彼の遺体をさがしお墓を立てた。後日、昌子夫人はこの小さな村に男女共学の学校をつくった。今も大切に守り継がれている学校だ。学校の名は「ハセガワ」という。

(記：渡辺 豊)

CT: 自宅 5:25 - 中之岳神社 11:00 - 妙義神社 15:45。横浜 20:00 - 鴨居 20:45 - 自宅 21:10



「大黒の滝」  
妙義山お中道  
2019-04-13



「荒船山・第四石門・妙義山」  
2019-04-13 (土)